

## 当院看護師の学習ニーズの現状と今後の院内教育プログラムの課題

卒後教育プロジェクト：○濱田・太田・橋本・橋爪・森田  
金尾・三池・不動寺・山根

キーワード：院内教育、学習ニーズ

### はじめに

当院の教育目的に「専門職業人として時代の変化に応じた質の高い看護が提供できる看護師を要請する」をあげている。そのため、患者を中心とした看護の質の向上、看護職員へのエンカレッジを目的とし 2000 年よりキャリア開発ラダーシステムを取り入れ、経年別プログラムからラダー（能力別）プログラムへと変更し、各レベルに対応した教育を実施している。実際の教育プログラムは看護部教育委員会の下、卒後教育プロジェクトで企画・運営している。看護部の理念・基本方針、年度毎の目的・目標に沿って院内教育プログラムを作成し、それに基づき具体的内容の検討・実施を行い、参加者のアンケートも参考にしながら評価を行っている。

今回、千葉大学「日本型看護職者キャリア・ディベロップメント支援システム」をもとに、一部修正・追加したものをを用いて、当院における全看護職員の学習ニーズを把握し、今後のプログラム作成に活用するという目的で調査研究を行なった。ここに、結果・今後の課題を報告する。

### 研究方法

#### 1、研究対象者

本研究の対象者は、当院におけるパート業務を除く全看護職員 380 名である。

#### 2、研究期間

平成 18 年 11 月から平成 19 年 1 月までであった。

#### 3、調査方法

先行研究の三浦ら<sup>1)</sup>が作成した「学習ニーズアセスメントツール」を元に一部修正・追加したアンケート用紙を作成し、無記名によるアンケートを部署ごとに配布し回収した。

質問項目は 21 項目で、6 つの構造<sup>2)</sup>に分類される。6 つの分類とは、A：所属看護単

位の特徴に応じた既習内容の専門化、B：多様な教育的機能の発揮、C：組織運営への参画者としての役割遂行、D：流動する社会がもたらす実践環境変化への対応、E：研究遂行と成果活用による看護業務の効率化・看護の質保証、F：赤十字である。

#### 4、分析方法

回収された質問紙 323（回収率 85%）から有効回答した 315（有効回答率 98%）を分析した。分析対象のデータをラダー習得状況により区分し学習ニーズの違いを比較した。

#### 5、用語の定義

学習ニーズ<sup>3)</sup>とは、主体である学習者が発達する過程において知覚する興味・関心、もしくは、目標達成に必要な知識・技能・態度であり、学習経験によって充足または獲得可能なものである。

#### 6、倫理的配慮

研究対象者となる看護師への依頼状には、研究目的と意義、調査の必要性、倫理的配慮について明記し、情報を得る権利を保障した。回答に個人を特定できる記述欄を設けず、無記名の提出を依頼し、プライバシー・匿名性の権利を保障した。

### 結果・考察

#### 1、対象者の特性

対象者の年齢は、22 歳から 57 歳の範囲であり、平均年齢は 29.7 歳（SD6.5）であった。既婚者は 82 名（25%）、未婚者は 230 名（71%）で、子供有りの者は 61 名（19%）、子供無しの者 237 名（73%）であった。職位は、スタッフ 158 名（53.3%）、スタッフで実習指導者や委員会活動などの役割を持つ者 108 名（36.4%）、管理補佐 22 名（7.4%）、看護師長 8 名（2.7%）であった。

#### 2、ラダー段階別での考察

ラダー習得状況は、ラダー未修得から I 段階まで 126 名（39%）、ラダー II 段階は 81 名（25%）、ラダー III 段階は 32 名（10%）、ラダー IV 段階は 6 名（2%）であった。段階別のニーズ上位 3 位につい



ては、別紙・表1～4を参照。

### 1) ラダー未修得からI段階

看護実践に役立つ内容を学習ニードとしている。

院内の集合教育の希望には、地域・在宅看護の知識が入っており、急性期病院の実態や継続看護の必要性を日々の看護に感じていることが言えると考ええる。

### 2) ラダーII段階

看護実践に役立つ内容と共に、看護記録を学習ニードとしている。電子カルテに向けて各部署での動きが動機付けになっているものと思われる。

院内の集合教育の希望には、学生やスタッフ・患者の問題解決を支援していくために活用可能なカウンセリング技法が1位となっている。学生指導やプリセプターを担っていく段階であることが影響していると考ええる。

### 3) ラダーIII段階

地域・在宅看護の知識を学習ニードとし、またこの段階で、職場での自分の役割と責任を理解し仕事をしていくために必要な管理に関わる知識・技術の学習ニードが加わっている。看護実践に役立つ内容以外に、管理的な視点を増やしていく必要性を感じている段階であることがわかる。

院内の集合教育の希望には、管理的な学習内容は少なく、院外で学んでいき視野を広げていく姿勢が伺える。

### 4) ラダーIV段階

多様化する患者のニードに対応していくために必要な法律・制度とその活用方法が1位であった。管理を実践している段階であるので、責任者としての役割から患者とスタッフを守っていくための知識は必要であり学習が必要だと思っていると捉える。

## 3、全体を通しての考察

全体の結果を見てみると、(図1参照)A「所属看護単位の特徴に応じた既習内容の専門化」とD「流動する社会がもたらす実践環境変化への対応」の学習ニードが高く、学習内容を所属部署の実践に活かすことができるものと最新の医療への関心が高いこと

がわかる。また、地域・在宅看護の知識に関する学習ニードは全体を通して高く、継続看護を推進する当院の理念に合致している。

B「多様な教育的機能の発揮」、C「組織運営への参画者としての役割遂行」、E「研究遂行と成果活用による看護業務の効率化・看護の質保証」についてはラダーI段階があがるとともに学習ニードの増加につながっており、各段階へ求められる役割にそった学習ニードが現れているといえる。

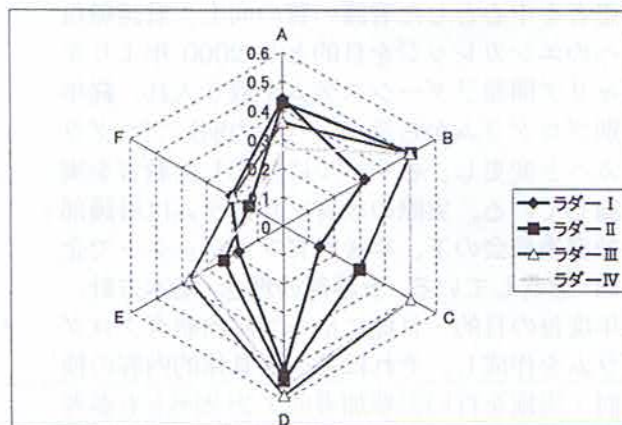


図1：ラダー段階別学習ニード

現在卒後教育プロジェクトで担当している内容と照らし合わせると、ラダーI段階に関しては学習ニードにあった内容に対応しているといえる。しかし、II・III・IV段階の学習ニードには不足していると思われるため、学習ニードにそった記録やカウンセリング、管理などに関する研修の必要性が読み取れる。学習ニードはあっても院内での教育を希望する項目が少ないことから学習の機会を外に求めているとも考えられる。舟島は「自己学習とは必要な課題を探索、発見し、その課題を自身で学んでいく過程を意味し、専門職はこのような自律性を習得していく存在である」<sup>4)</sup> といっており、院内でなくても学習の機会があれば参加できると考えるため、研修に参加できる環境を整えば学習ニードを満たしていくことにつながると考える。また、「職員は学習ニードに合致した教育を受けることで自己学習への内発的な動機付けにつながる効果が見られる」<sup>5)</sup> といわれており、当院スタッフの学習ニードを基にしたラダー段階別習得要件内容へのフィードバックや卒後教育計画の修正、追加などが今後の課題として挙げられる。



アンケートでは時間外研修への参加希望の有無についても質問した。結果は、希望 216 名 (67%)、不希望 98 名 (30%) であった。希望者の意見として「自己啓発」「知識を深めるため」「関心のある内容」「自己学習より効果的」など、不希望者の意見として、「家庭の事情などで時間が無い」「余裕が無い」「参加するのが大変」「業務が多忙で時間外研修は意欲が減退するまたは負担に感じる」などがある。既婚者や子供を持つ割合は全体の約 4 分の 1 を占め、また何らかの役割を持つ看護師も約半数であり、不希望や参加困難へつながる要因であると考えられる。しかし、不希望意見の看護師が、希望する看護師より研修希望内容についての記載が多く、研修に行っていないことが学習ニーズの低さにつながるとはいえないことが読み取れ、学習環境の整備が必要であることがいえる。また、内的動機付けを促す方法として、より自主的に参加できる方策や参加したことが目に見えて成果となるような対策 (研修のポイント制化) などの教育システムの変化も必要であると考えられる。集合教育への参加は難しくても各単位で学習する機会を持てるよう OJT の充実や教育参加への理解などが必要である。女性の多い職場として出産・育児などライフスタイルを考慮したプログラム支援が求められていることも読み取れた。

#### 4、勉強したいプログラムについて

院内研修で勉強したいプログラムがあるかという問いに対し、はいと回答した者は 215 名 (67%)、いいえと回答したものは 74 名 (23%) であった。希望内容としては、ACLS、褥創ケア、NST、感染管理、フィジカルアセスメント、ペインコントロール、ターミナルケア、医学や薬学の知識など院内でこれまでに実施しているプログラムが多かった。

院外研修に勉強したいプログラムがあるかという問いに対し、はいと回答したものは 148 名 (46%) であった。希望内容は、専門的な分野の内容、コーチング、ターミナルケア、安全管理などで、専門の知識について時間をかけて学習したい意図が読み取れた。

## 結論と今後の展望

- ・当院では「所属看護単位の特徴に応じた既習内容の専門化」、「流動する社会がもたらす実践環境変化への対応」に関する学習ニーズの高いことがわかった。そのため、最新の医療・看護に関するトピックス研修の実施など求められる。
- ・現在の卒後教育プロジェクトの研修内容はラダー I 段階へは対応しているが II 以上へは不足していることが示唆された。そのため、ラダー II、III、IV 段階対象の研修の充実や学習環境の整備、教育システムの検討が求められる。
- ・今回は、学習ニーズの把握を目的としてまとめたが、教育ニーズとして卒後教育プロジェクトにどのように活用するか考察を深めることが求められる。

## おわりに

急性期病院としての役割を発揮しながら個々の学習ニーズを満足させていくためには、ひとりひとりのライフスタイルを大事にした教育が必要であることを実感した。この調査研究を通しての気づきや学びをいかして、今後も魅力ある教育プログラムが提供できるよう努めていきたい。

## 【引用・参考文献】

- 1) 三浦弘江：「学習ニーズアセスメントツール (臨床看護師用)」看護展望 31 (5) p.27
- 2) 杉森みど里：看護教育学、医学書院 2004.p.335
- 3) 前掲書 2) p.333
- 4) 舟島なをみ：「魅力ある院内教育の実現」看護展望 31 (5) p.19
- 5) 前掲書 2) p.332
- 6) 三浦弘恵：「院内教育における教育ニーズ・学習ニーズの測定とその意義」、看護展望 31 (5)



表1：ラダー未修得～Ⅰ段階修得者の学習ニーズ

	学習ニーズ ○数字はアンケート番号	構造	院内集合教育の希望 ○数字はアンケート番号	構造
1位	所属部署の特殊性や患者の個別状況にあった看護過程を展開するために必要な知識・技術①	A	日々の進歩に立ち遅れず看護を実践していくために必要な看護・医療・福祉の最新の知識⑮	D
2位	所属部署の特殊性や患者の個別状況にあった急変時の対処方法②	A	今後も増加し続ける在宅療養患者に対応していくために必要な地域・在宅看護の知識⑯	D
3位	患者を理解し日々の看護を実践するために必要な検査データの解釈方法⑤	A	所属部署の特殊性や患者の個別状況にあった急変時の対応方法②	A

表2：ラダーⅡ段階修得者の学習ニーズ

順位	学習ニーズ ○数字はアンケート番号	構造	院内集合教育の希望 ○数字はアンケート番号	構造
1位	日々の進歩に立ち遅れず看護を実践していくために必要な看護・医療・福祉の最新の知識⑮	D	学生やスタッフ・患者の問題解決を支援していくために活用可能なカウンセリング技法⑫	B
2位	所属部署の特殊性や患者の個別状況にあった看護過程を展開するために必要な知識・技術①	A	安全に配慮しながら日々の看護を実践するために必要な感染予防の方法③ 所属部署での学生指導、スタッフ教育、患者教育に必要な理論・知識・技術・態度⑭	A C
3位	所属部署の特殊性や患者の個別状況にあった看護記録の方法④	A	今後も増加し続ける在宅療養患者に対応していくために必要な地域・在宅看護の知識⑯	D

表3：ラダーⅢ段階修得者の学習ニーズ

順位	学習ニーズ ○数字はアンケート番号	構造	院内集合教育の希望 ○数字はアンケート番号	構造
1位	今後も増加し続ける在宅療養患者に対応していくために必要な地域・在宅看護の知識⑯	D	今後も増加し続ける在宅療養患者に対応していくために必要な地域・在宅看護の知識⑯	D
2位	患者の人権を擁護しながら日々の看護を実践するために必要な倫理的配慮⑧ 職場での自分の役割と責任を理解し仕事をしていくために必要な管理に関わる知識・技術⑭	A C	学生やスタッフ・患者の問題解決を支援していくために活用可能なカウンセリング技法⑫	B
3位	所属部署の特殊性や患者の個別状況にあった看護過程を展開するために必要な知識・技術① 学生やスタッフ・患者の問題解決を支援していくために活用可能なカウンセリング技法⑫	A B	日々の進歩に立ち遅れず看護を実践していくために必要な看護・医療・福祉の最新の知識⑮	D

表4：ラダーⅣ段階修得者の学習ニーズ

順位	学習ニーズ ○数字はアンケート番号	構造	院内集合教育の希望 ○数字はアンケート番号	構造
1位	多様化する患者のニーズに対応していくために必要な法律・制度とその活用方法⑰	D	看護理論を活用しながら看護を実践していきけるようになるための必要な知識⑩	A
2位	日々の進歩に立ち遅れず看護を実践していくために必要な看護・医療・福祉の最新の知識⑬	C	多様化する患者のニーズに対応していくために必要な法律・制度とその活用方法⑰	D
3位	学生やスタッフ・患者の問題解決支援していくために活用可能なカウンセリング技法⑫	B	所属部署の特殊性や患者の個別状況にあった看護記録の方法④	A